

## 資料 3 各調査の進捗について

| 調査項目と目的   | 概 要  |
|---|--|
| <p><b>(1) 現況利用状況調査</b><br/>生田緑地の利用促進と回遊性向上に向けた課題と可能性を明らかにするため、スマートフォンの位置情報を用いて、利用状況を広域的に把握。</p>             | <p>過去3ヶ年（コロナ禍前後期間）の傾向（分析中）<br/>○各出入口の利用状況<br/>・西口の利用割合が増加している。<br/>○各施設の利用状況<br/>・年齢別利用は、青少年科学館、日本民家園は70代前後が多く、岡本太郎美術館は30代前後が多い。</p>   |
| <p><b>(2) 利用者アンケート調査</b><br/>既存利用者のニーズと属性を明らかにするため、令和4年10月下旬の平日・休日各2日、中央地区及びばら苑にてアンケート調査を実施。（有効回答数450件）</p> | <p>調査結果の傾向（分析中）<br/>○既存利用者のニーズと属性<br/>・利用目的の45%は「散歩」、25%は「自然観察」。<br/>・よく利用する公園施設の最多回答は「中央広場」。<br/>・したいことの最多回答は「自然とふれあう」。<br/>・近隣からの利用は35%、リピーター利用は60%。</p>   |
| <p><b>(3) 近隣小学生アンケート調査</b><br/>近隣小学生のニーズと属性を明らかにするため、調査を実施。</p>   | <p>東生田小学校の全校生徒を対象に近日実施予定。</p>  |
| <p><b>(4) 生田緑地及び3館指定管理者<br/>ヒアリング調査</b><br/>生田緑地及び3館の指定管理者の、これまでの取組、課題認識、今後の展望等を把握。</p>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・植生管理で得られた素材を活用し、生田緑地の自然と親和性の高い文化活動を各館で展開中。</li> <li>・地元商店街や近隣教育機関等との連携に手ごたえ。</li> <li>・中央広場の利用圧を西口広場側に分散させる取組を継続。西口の利用増につながった。</li> </ul>                              |
| <p><b>(5) ゴルフ場指定管理者<br/>ヒアリング調査</b><br/>川崎国際生田緑地ゴルフ場指定管理者の、これまでの取組、課題認識、今後の展望等を把握。</p>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の利用拡大が指定管理の成果のひとつ。レディースデーには利用者の9割が女性となる。</li> <li>・専門スタッフによる生態系保全調査を毎年実施中。</li> <li>・早朝夕方等に他の利用を招く取組は拡大可能。夜間活用も安全管理を担う市側との共催であれば可能性あり。</li> </ul>                    |
| <p><b>(6) 生田緑地ばら苑管理者<br/>ヒアリング調査</b><br/>生田緑地ばら苑管理者の、これまでの取組、課題認識、今後の展望等を把握。</p>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化が深刻。建物諸室の広さが利用目的に合わず不便。各施設のバリアフリー対応にも課題。</li> <li>・バラの生育土壌が劣化し、全体的な入れ替えが必要。</li> <li>・ボランティアとばら募金に支えられてきたので、再整備に当たり極端なデザイン変更は望ましくない。</li> </ul>                  |
| <p><b>(7) ばら苑ボランティアの会<br/>ヒアリング調査</b><br/>生田緑地ばら苑ボランティアの会参加者の、これまでの取組、課題認識、今後の展望等を把握。</p>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれに思い入れのあるバラがあるので再整備時に残す品種の選択には市民の思いが反映できるとよい。</li> <li>・このばら苑の一番の魅力は、緑に囲まれ周囲に人工物がほとんど見えないこと。</li> <li>・このばら苑の大切なコンセプトは、市民の声に支えられて遺すことができた「市民に愛されているばら苑」。</li> </ul> |
| <p><b>(8) 生田緑地ビジョン改定<br/>プロジェクト会議</b><br/>第2回令和4(2022)年12月20日開催。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源分類の「みどり」は保全の側面に偏った項目立てになっており利用の側面もうまく整理してほしい。</li> <li>・30年後のビジョンを描くには30年後も活躍している若い世代の参加が欠かせない。</li> <li>・ビジョン改定プロセスに幅広い市民参加機会がほしい。</li> </ul>                       |

## (1) 現況利用状況調査

### 1. 調査の目的

- スマートフォンの位置情報を用いて利用者の分布、移動・滞留状況を広域的に把握し、生田緑地全域の利用促進と回遊性の向上に向けた課題と可能性を明らかにします。
- 回線会社（KDDI）のGPS位置情報と契約情報（性別・年代別等の属性データ）を活用し、任意期間における任意の区域や施設における通行・滞在人口の分析を行います。

#### ■ GPS位置情報を活用する際の特性

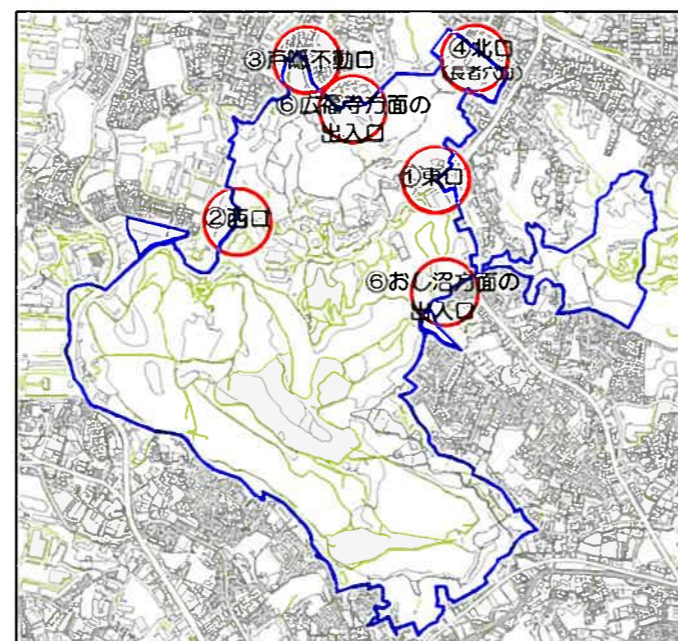
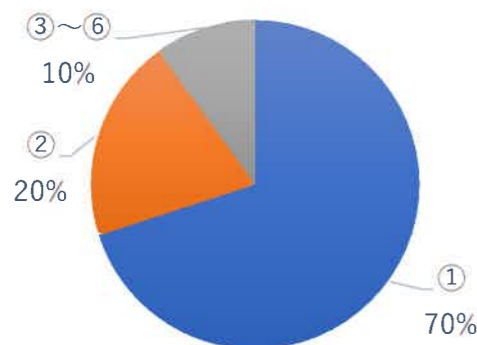
- 分析に用いるデータは、回線会社（KDDI）側で設定した拡大率（各地の人口と各回線の契約者数などから算定）が考慮された値となっています。KDDI回線利用者に限定されたデータではなく、一般的な人口としてデータが抽出されますが、実際の数値との誤差があります。このため、分析で用いる際には、利用割合などの指数で比較すべきとされています。
- 過去データを約3年の範囲で遡り用いることができ、コロナ禍前後などの経年変化を分析可能です。
- 運営上の取り決めで20歳未満は集計対象外となっています。また、集計期間内で10人未満となった場合、データは秘匿扱いとなります。ただし、集計期間を長く設定することで、ある程度は秘匿扱いを回避することができます。
- 集計に際しては、任意の期間内、平日・祝休日の区分を基本とし、性別、年代別などのクロス集計が可能となっています。
- 位置情報は方形メッシュ単位で集約されるため、任意の区域や施設単位で集計した際、周囲に滞在する人を抽出してしまうことがあります。
- 解析ソフトは「KDDI Location Analyzer（有料版）」を用いています。

### 2. これまでの調査・分析の概要

#### (1) 各出入口の利用状況

##### ■ 各出入口の利用割合

- ①東口、②西口、③戸隠不動口、④北口（長者穴口）、⑤おし沼方面の出入口、⑥広福寺方面の出入口の利用割合として、おおよそ下図のような傾向が見られます。

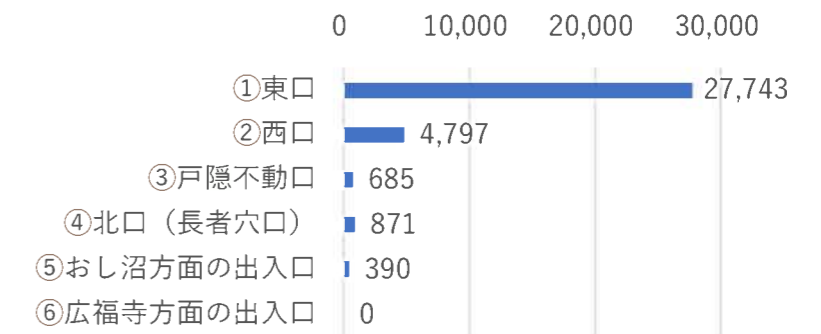


#### ■ コロナ禍前後の出入口利用状況

- コロナ前、緊急事態宣言中、現在に分けて各出入口における利用状況の変化を整理します。

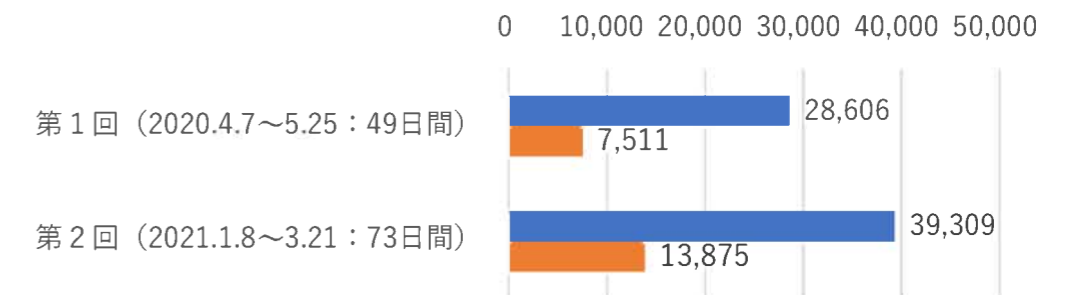
##### ◇ コロナ前（2019年5月の1ヶ月間）

- 年齢別では、各出入口ともに20代の利用は少なく、70代以上、60代の利用が多い傾向があります。



##### ◇ 緊急事態宣言中

- 東口に対する西口の利用割合（（西口/東口）×100）を比較すると、コロナ前：17%、第1回緊急事態宣言期間中：26%、第2回緊急事態宣言期間中：35%と変化しており、西口の利用が増加傾向にあることがわかります。この傾向は現在も継続しており、22年5月の1ヶ月は39%となっています。
- 年齢別では、各出入口で70代以上の利用が多く、①東口では、朝6時30分前後に70代以上の女性が非常に多く利用しています。（各緊急事態宣言中は同様である。）



##### ◇ 現在（2022年5月の1ヶ月間）

- 年齢別では、各出入口ともに、20代の利用は少ないものの、30代以降の各年代では、同程度の割合が見られます。



#### ■ 出入口から見た園内経路などの傾向

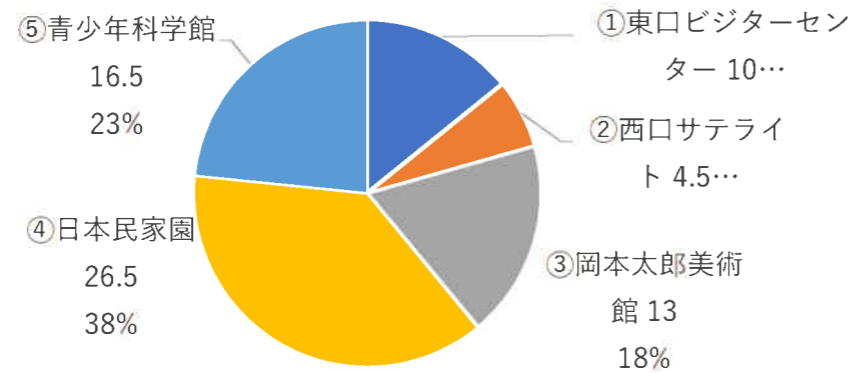
- 主要な出入口となる①東口、②西口からの園内経路は、利用者数の構成比から次の利用パターンが考えられます。（各パターンの傾向は分析中）

- パターン1：①東口から入り①東口から出る。
- パターン2：②西口から入り①東口から出る。
- パターン3：①東口から入り②西口から出る。
- パターン4：②西口から入り②西口から出る。

(2) 各施設の利用状況

■ 各施設の利用割合

- ①東口ビジターセンター、②西口サテライト、③岡本太郎美術館、④日本民家園、⑤青少年科学館の利用割合をみると、おおよそ下図のような傾向が見られます。

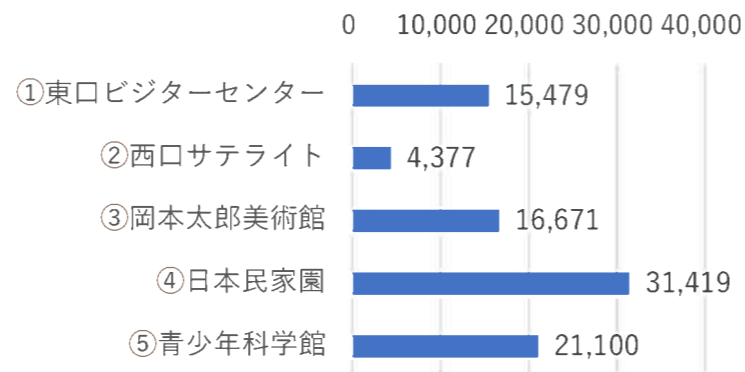


■ コロナ禍前後の施設利用状況

- コロナ前、緊急事態宣言中、現在に分けて各出入口における利用状況の変化を整理します。

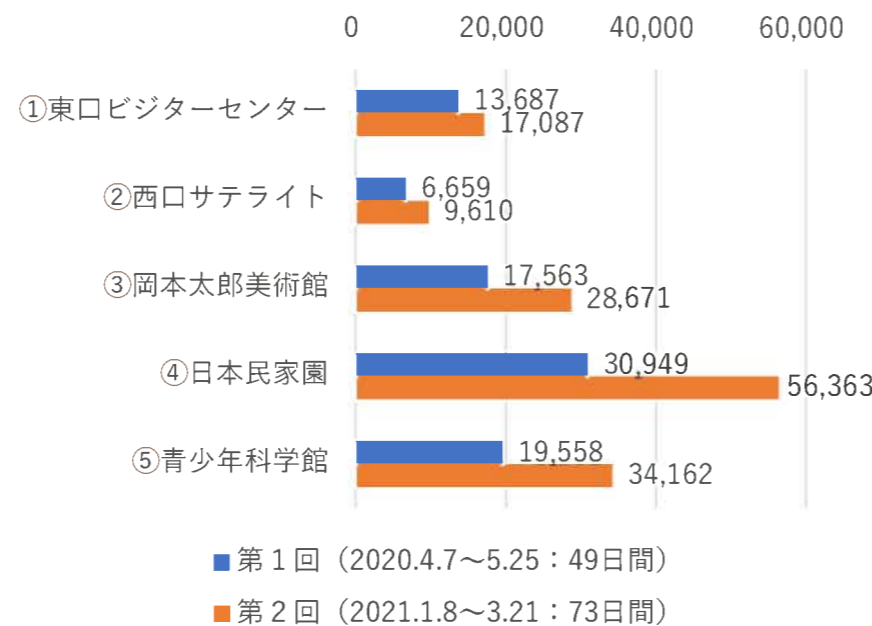
◇ コロナ前 (2019年5月の1ヶ月間)

- 年齢別では、②西口サテライト、③岡本太郎美術館は各年代とも同程度の利用割合です。他の施設では、70代以上の利用が多い傾向があります。平日では②西口サテライト以外の施設で70代以上の利用が顕著に多い傾向があります。



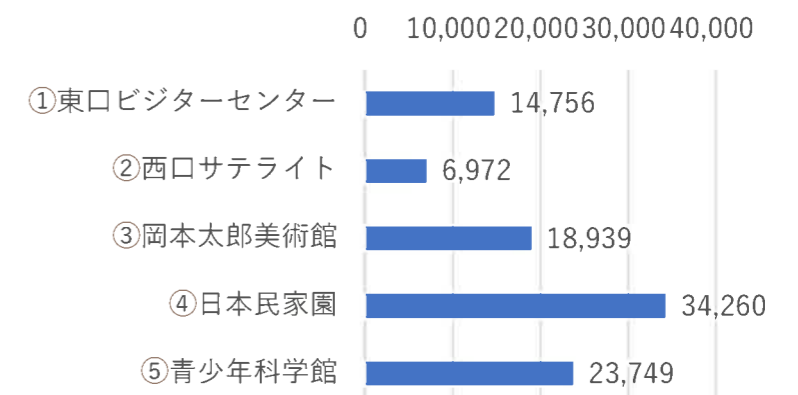
◇ 緊急事態宣言中

- 年齢別に見ると、各施設とも70代以上の利用が多い傾向があります。
- 各施設の利用割合をみると、特に日本民家園に変化が見られ、第1回：35%、第2回：39%となっています。



◇ 現在 (2022年5月の1ヶ月)

- 年齢別では、③岡本太郎美術館で30代の利用が多く、④日本民家園や⑤青少年科学館では70代以上の利用が多い傾向があります。



(3) 生田緑地ばら苑の利用状況

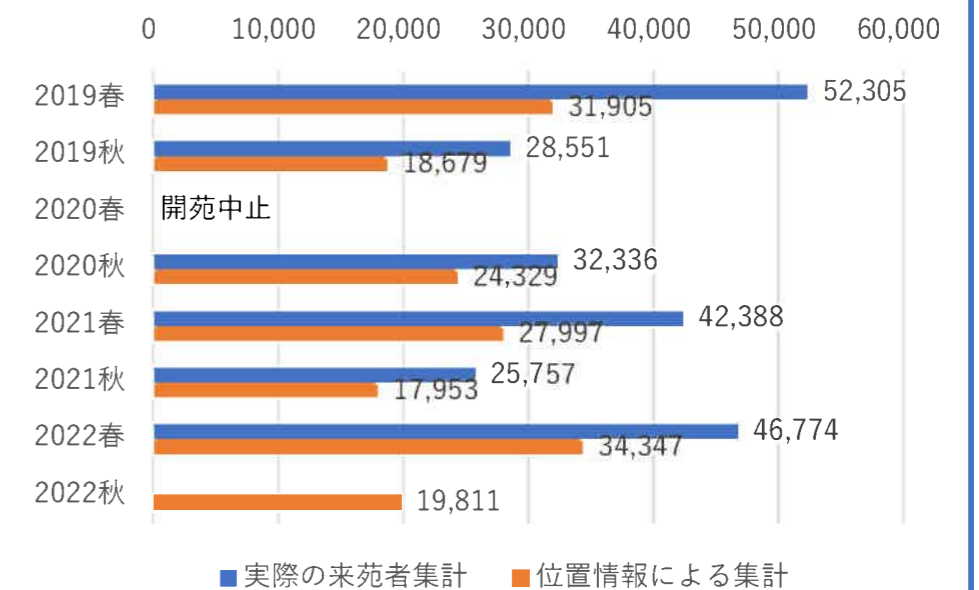
■ 各アクセス動線の利用割合

- ばら苑へのアクセスには、現在、府中街道からばら苑に至る北側ルートと、向ヶ丘遊園駅菅生線からばら苑に至る西側ルートがあり、開苑期間中における各ルートの利用状況を調査します。(分析中)



■ コロナ禍前後のばら苑利用状況

- 第1回緊急事態宣言期間中の2020年春は開苑を中止しましたが、その後2020年秋より感染対策を講じたうえで開苑を継続しました。コロナ禍にあった2020年秋は例年に比べ来苑者数が増加しました。2021年には春秋ともに減少傾向となったものの、2022年は例年並みに近づいてきています。
- 実際の来園者数(川崎市公園緑地協会提供)と位置情報による集計数値を比べると、右表のように大きな誤差がありますが、増減の傾向は概ねつかめることがわかります。



## (2) 利用者アンケート調査

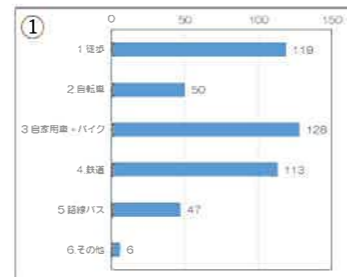
### 1. 調査の概要

- 令和4年10月22日(土)から27日(木)までの平日・休日に、生田緑地内東口、中央広場、ばら苑において、利用者450人に、生田緑地来園者アンケート調査を実施しました。
- 回答者の年齢は40歳から79歳までが同程度に多く、性別では女性が58%でした。住所は、川崎市が三分の二を占め、その他は神奈川県56人、東京都82人でした。

### 2. 調査結果の分析(作業継続中)

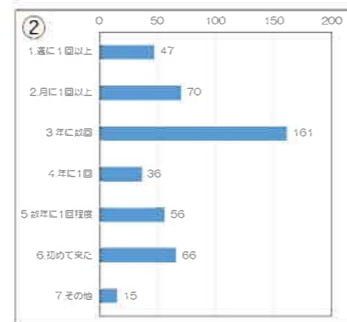
#### ■ アクセスについて(①)

- 約35%が徒歩あるいは自転車による近隣からの来苑でした。遠方からの来苑手段としては、約30%は自家用車・バイク、約25%は鉄道、約10%は路線バスを利用したの来苑でした。



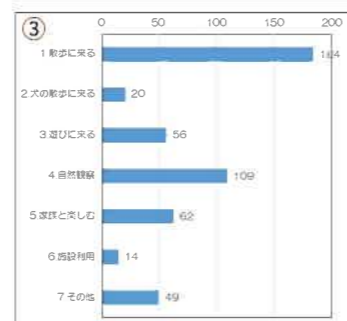
#### ■ 来園頻度について(②)

- 週に1回以上、月に1回以上、年に数回と答えたりピーター利用者が約60%を占めた一方、はじめて来たと答えた人は約15%でした。



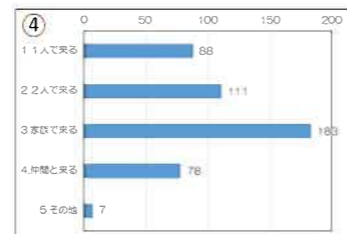
#### ■ 利用目的について(③)

- 散歩あるいは犬の散歩に来ると答えた人が約45%と最も多く、自然観察と答えた人が約25%と次に多い結果となりました。



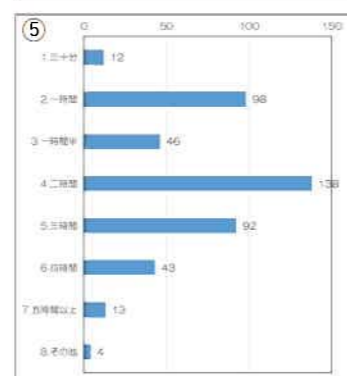
#### ■ 誰と来るかについて(④)

- 家族で来ると答えた人が約40%、2人で、あるいは仲間と来ると回答した人が約40%、一人で来ると答えた人は約20%でした。



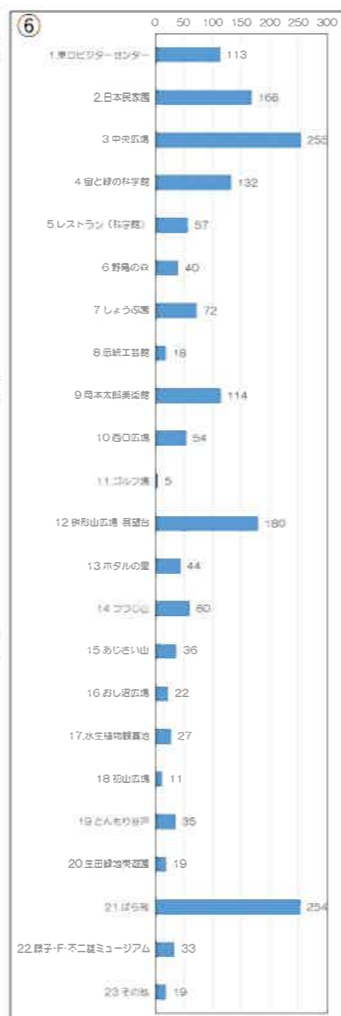
#### ■ 滞在時間について(⑤)

- 回答の多い順にみると、2時間が約30%で最も多く、1時間と3時間がともに約20%、1.5時間と4時間がともに約10%でした。1~3時間と回答した人が約80%を占めています。



#### ■ よく利用している公園施設について(⑥)

- 複数回答可として最も多い回答は、中央広場(255)とばら苑(254)でした。続いて多かったのは、順に榊形山広場・展望台(180)、日本民家園(168)、岡本太郎美術館(114)、東口ビジターセンター(113)でした。



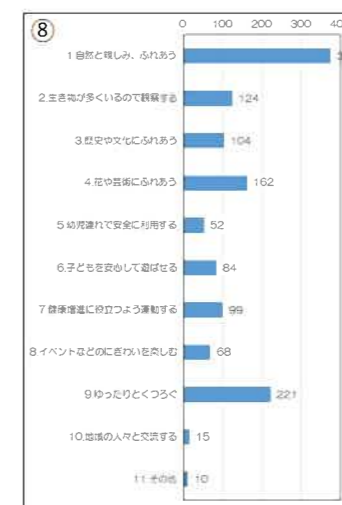
#### ■ 生田緑地の好きなおところについて(⑦)

- 複数回答可として最も多い回答は「森や草花などの自然」(360)、「自然の中を歩く散策路」(329)、「草原や水辺などの自然」(171)などと、自然関連が上位を占めました。また、「科学館、民家園などの文化施設」(174)への回答や、「芝生広場、花木、花壇」(180)、「展望台や自然の景観」(156)などの公園的要素への回答も多くありました。



#### ■ 生田緑地でしたいことについて(⑧)

- 複数回答可として最も多い回答は、「自然と親しみふれあう」(375)でした。次に「ゆったりとくつろぐ」(221)、「花や芸術にふれあう」(162)、「生きものが多くいるので観察する」(124)などが上位を占めました。



#### ■ 生田緑地への不満について(⑨)

- 複数回答可として最も多い回答は、「現状で十分満足している」(145)でした。不満としては「食事を取れるところが少ない」(80)、「駐車場が少ない」(35)、「ベンチ等の休憩施設が少ない」(32)などが上位を占めました。



#### ■ 生田緑地の活動への関わりについて(⑩)

- 複数回答可として最も多い回答は、「自然観察会などがあれば参加したい」(157)であり、「歴史文化の体験に参加したい」(80)、「植物の手入れなどに参加できる」(55)などが続きました。「今は無理だが将来は参加できるとよい」(108)、「簡単なことなら手伝える」(72)といった意欲を示す回答も多くありました。



#### ■ 自由意見について

- 自然に関しては「現状で満足している」という意見が多くありました。
- ソフト面への意見としては「情報発信やイベント告知」に関する要望が多くありました。
- ハード面への意見としては「遊具や子供の遊び場がほしい」、「売店や軽食の店、レストランがほしい」、「散策路の整備」などがありました。
- その他、バリアフリーに関連して「スペースに余裕のあるトイレ」、「高齢者でも歩きやすい、動きやすい園路など」 「民家園蕎麦屋さんの椅子席」などがありました。

### (3) 近隣小学生アンケート調査

#### 1. 調査の概要

- 校外学習等に生田緑地を頻繁に利用している東生田小学校の全校生徒を対象に下記のような内容でアンケート調査を実施予定。


  
 「おしえてください!! 生田緑地のこと」

生田緑地をよくするためのアンケートをしています。思ったままを答えて下さい。


Q1. 生田緑地のどこに行くことが多いですか。  
(あてはまるものすべてに○をして下さい)

|  |   |  |
|--|---|--|
| 1. 中央広場<br>       | 2. 日本民家園<br>     | 3. 東口ビジターセンター<br>       |
| 4. しょうぶ園<br>     | 5. 野鳥の森<br>     | 6. 宙と緑の科学館<br>         |
| 7. 伝統工芸館<br>    | 8. 樹形山展望台<br>  | 9. ホタルの里<br>          |
| 10. ばら苑<br>     | 11. とんもり谷戸<br> | 12. つつし山・梅園・あじさい山<br> |
| 13. 岡本太郎美術館<br> | 14. その他 ( )   |  |


Q2. 生田緑地には、おもに何をしに行きますか?  
(あてはまるものすべてに○をして下さい)

|             |            |                             |
|-------------|------------|-----------------------------|
| 1. 遊びに行く    | 2. 遠足など    | 3. 学校の授業                    |
| 4. 科学館の教室   | 5. ボランティア  | 6. イベント<br>(マルシェ・十五夜フェスタなど) |
| 7. 虫探し・観察   | 8. ピクニック   | 9. 花見(桜など)                  |
| 10. クラブ活動   | 11. ボールあそび | 12. 携帯ゲーム                   |
| 13. その他 ( ) |            |                             |

Q3. 生田緑地の自然のうち、何に興味がありますか?  
(あてはまるもの3つに○をして下さい)

|   |         |              |             |       |
|---|---------|--------------|-------------|-------|
| 1. 樹木   | 2. 植物   | 3. 昆虫        | 4. 水生生物     | 5. 野鳥 |
| 6. 小動物  | 7. 季節の花 | 8. 水辺(池・ながれ) | 9. キノコ      |       |
| 10. 地層<br> | 11. 星空  | 12. とくに興味はない | 13. その他 ( ) |       |

Q4. 生田緑地の自然・文化を守り、ふれあう活動を広げていきたいと考えていますが、みなさんは、どのように協力できると思いますか?  
(あてはまるもの3つに○をして下さい)

|  |                             |
|--|-----------------------------|
| 1. 自然観察会などに参加する  | 2. 植物を育てる活動に参加する            |
| 3. 昔遊びを伝える活動に参加する<br> | 4. 大人になったら、参加したい            |
| 5. 自分ができる活動がわからない  |                             |
| 6. 参加したくない   | 7. 活動に参加したいが どうしたらよいか わからない |
| 8. すでに活動に参加している 9. その他 ( )   |                             |

Q5. より良い生田緑地にするためには、どのようにしてほしいですか?  
(あてはまるもの3つに○をして下さい)

|   |   |
|---|---|
| 1. 自然を大切に将来に残す  | 2. 昔のことを体験できるようにする<br> |
| 3. 生き物の種類をもっと増やす  | 4. 遊びの施設を増やす  |
| 5. もっと花を楽しめるようにする   | 6. 芝生などの広場を増やす  |
| 7. 楽しく歩ける道を増やす  | 8. 眺めの良い場所を増やす  |
| 9. 休憩所を増やす<br> | 10. レストラン、売店を増やす  |
| 11. ばら苑に行きやすくする   | 12. イベントを増やす  |
| 13. 虫がいない方がよい   | 14. その他 ( )   |

Q6. 生田緑地についての自由意見  
生田緑地をより良くしていくのに、ご意見がありましたら自由にお書きください。

Q7. あなたについて教えてください。

性別 1. 男 2. 女

学年 ( )年生

ご協力ありがとうございました。 

## (4) 生田緑地及び3館 指定管理者 ヒアリング調査

### 1. 植生管理

#### ■ 順応的管理を志向する実施プログラムを策定

- 生田緑地の植生管理計画は、「生田緑地の自然の保全・利用方針」「生田緑地植生管理計画」「植生管理実施プログラム」の三段階で構成されています。
- 「植生管理実施プログラム」は、自然環境保全管理会議（以下「自然会議」）にて策定され、「順応的管理」の考え方に沿って、目標、管理内容、モニタリングなどの具体的な方針を細分地区毎に設定しました。
- 「植生管理実施プログラム」は、希少植物等の盗掘被害を防ぐため、非公開となっています。

#### ■ 課題は実施プログラムの実行性と活動の継続性

- 「実施プログラム」に実行性が伴わないことが問題視されています。原因のひとつは、モニタリングの仕方が活動団体間で異なり、順応的管理の「やって・みて・考える」のサイクルが定着しないこととされています。
- 担い手の高齢化が共通課題であり、活動の継続性が危ぶまれています。新たな参加を促すため、一部の活動団体では、作業をレクリエーションとして提供するプログラムの運営をはじめています。
- 生田緑地ではナラ枯れが各地区で発生しており、枯木の伐採などの対策を順次進めています。植生管理計画にも、ナラ枯れ後の目標植生や管理内容、ナラ枯れの予防策などを踏まえた見直しが必要とされています。
- 指定管理者は、担当区域の植生管理、各活動団体の作業などへの参加、大径木の伐採などの作業代行、活動団体間の情報共有のサポート、掲示板などを用いた広報の支援などを通じて、活動団体のサポート役、つなぎ役の役割を果たそうとしています。また、活動団体に属さずに気軽に参加できる都度募集のボランティアの仕組みを構築する取組を始めています。

#### ■ 植生管理の発生材を文化的に活用する取組

- 伐採した竹材は、日本民家園の炉端の会が竹かごなどに加工し販売しているほか、竹風鈴づくりなどクラフト系ワークショップで用いる素材などに活用しています。
- ナラ枯れ由来の木材は、日本民家園の囲炉裏などで薪材として活用しています。薪材は東口ビジターセンターなどでも一般に販売しているほか、新たな販路開拓を模索中です。



活動団体から依頼を受けて大径木の伐採を代行する指定管理者



生田緑地整備事務所2階市民活動室にて開催された「竹風鈴をつくってみよう！」ワークショップ



岡本太郎美術館での自然を身近に感じるワークショップの取組例（専修大学インターン生企画）

### 2. 文化と自然、文化と地域をつなぐ取組

#### ■ 自然との親和性の高い文化活動の展開

- 芸術分野（岡本太郎美術館）においても、植生管理で得られた多様な自然素材を用いたクラフト系ワークショップや、樹林を背景とした屋外展示イベントなどに積極的に取り組んでいます。

#### ■ アウトリーチ活動

- 市民が生田緑地の文化活動にふれる機会を拡大するため、多摩区役所、ラゾーナ川崎、川崎日航ホテルなど市内各地でクラフト系ワークショップを積極的に開催しています。

### 3. 地域との連携について

#### ■ 消費を交流ツールとした地域連携の取組

- サマーミュージアム、森のマルシェ、食の祭典などの多くの来場者を集めるイベント行事が恒例化してきており、地域の中間支援組織（多摩区 SDC）の活躍もあって、出店などを通じた地域との連携が深まっています。

#### ■ 地域の商店街などと連携した広報の取組

- 民家園通り商店会の夏まつりに生田緑地のブースを設置し、ワークショップの開催と物販を通じて生田緑地の広報を行いました。

#### ■ 多様な主体との連携

- これまでの地元商店街や町内会との連携にとどまらず、多摩川などの近隣観光地や、地域の小・中・高等学校、近隣大学と連携した取組も数多く展開しています。

### 4. 施設の老朽化等を防ぐ取組

#### ■ マナーアップを通じて過剰利用を避ける取組

- 運動目的で林内の細園路を走る利用者が木道を踏み抜き破壊する危険性があり、施設の老朽化を早めているため、サイン類の設置などを通じ利用マナーの向上に取り組んでいます。

#### ■ 利用者を分散化し、利用圧の集中を軽減

- 中央広場の利用圧が非常に高く、芝生が生育不良をきたしているため、外部からイベント開催の相談があった際には西口広場などに誘導する、西口広場にキッチンカーを出店するなどにより、利用圧を分散させる取組を行っています。



民家園通り商店街夏祭りではササの竿先に紙製の金魚を下げるおもちゃをワークショップで作成



西口広場でのイベント開催状況。（「たま楽市」(R4.11.13)）



踏み抜き破壊を防ぐため木道は歩くことを啓発するサインの例

## (5) 川崎国際生田緑地ゴルフ場指定管理者 ヒアリング調査

### 1. 現在の取組状況

#### ■ ゴルフ場の利用状況

- 利用者数は、令和2年度で1R：43,204人・ハーフ：2,062人、令和3年度で1R：53,915人・ハーフ：2,544人と増加傾向にあります。プレーヤーを割引している平日に利用が集中しており、平日の予約倍率は約200%となって約50組がキャンセル待ちとなる状況です。

#### ■ 利用の特徴

- このゴルフ場はどなたでも利用可能なパブリックゴルフ場ですが、利用者の約40%は川崎市民です。4人1組で予約されますが、そのうち2名弱が川崎市民ということになります。
- 女性の平日利用が非常に多く、月に1回の「レディースデー」には利用者の9割が女性となります。我々のグループが運営する全国のゴルフ場で「東急レディース」という女性向けイベントを開催していますが、これをきっかけに来場された女性客が、このゴルフ場の立地の良さ、アクセスのしやすさに気づき、リピート利用されるようになったようです。
- ゴルフ場利用の主要世代が高齢化しているため、近い将来に利用者数は激減すると予測されています。しかし現状は、若い世代の利用が増加傾向にあり、高齢世代のリタイヤによる減少を十分に相殺できています。ゴルフ経験のある若い世代が、コロナ禍を経て仕事の仕方に自由度が増したため、ゴルフを再開していることが理由です。

#### ■ 指定管理者制度導入後の変化・改善点

- 融通の利くサービスを提供できるようになり、ゴルフ場利用者からは利便性が向上したという評価をいただいています。一方で、利用の増加に伴い予約が取りにくくなってきたことを不便と感じられる利用者もおられるようです。

#### ■ 自然環境保全の取組

- 指定管理者の専門スタッフによる生態系保全調査を毎年実施しています。調査結果を一般に公表したことはありませんが、複数の希少生物の生息状況を確認しています。
- ゴルフ利用の方々に場内の自然に関心をもっていただくため、生態系保全調査の成果を紹介するポスターパネルをクラブハウス内に掲示しています。



西口展望広場からのゴルフ場の眺め



感染防止対策のため非接触チェックインシステムを導入



クラブハウス内に設置された生態系保全調査の成果を紹介するポスターパネル

- ゴルフ場は外部から侵入できない閉鎖環境であり、盗掘などを含めた人の影響を制限できることが、自然環境保全に役立っています。
- 特定の昆虫の生息が確認されているOBゾーンでは、草刈り時の高さや時期を調整しています。また、芝生などに散布する農薬は散布範囲外に流出しないよう必要最低限に抑えています。ゲンジボタルの生息環境を守る活動に取り組んでいる飛森谷戸の自然を守る会とも協力関係を築いています。

### 2. 今後の展望

#### ■ 豊かな自然環境や地形を活かした取組

- 現状でも、飛森谷戸の自然を守る会にお声がけし、夏休みの夕方に地域の子もたちを招いて昆虫観察会を行っています。また、雪が積もってゴルフ場が営業できない時は、近隣の幼稚園にお声がけし、子どもたちを招いてソリ遊びなどを楽しんでいただいています。ゴルフのプレー時間帯を避けた利用としては、現在でも専修大学陸上部のトレーニングのため週1回朝の時間帯に解放しています。こうした取組はご要望に応じて受け入れを拡大することが可能です。
- 夜間の活用事例としては、他のゴルフ場で自動運転カートを活用した星空観察会を実施した例があります。このゴルフ場では夜間の安全管理が課題となるため、安全管理を担う市側との共催であれば実現の可能性が高いと思います。

#### ■ 指定管理者間の連携強化

- 生田緑地ビジョンを共有する関係であり、今後も連携強化に取り組みたいと思っています。これまでもサマーミュージアムなどのイベントとゴルフ場の市民開放日を同日開催するなど連携した取組を中央地区及び3館の指定管理者と進めてきました。今後もサマーミュージアムの一会場として使いたいなどの要望があれば対応可能です。防災など共通するテーマのもとでイベントを共催することもありうると思います。

#### ■ 生田緑地の集客力向上

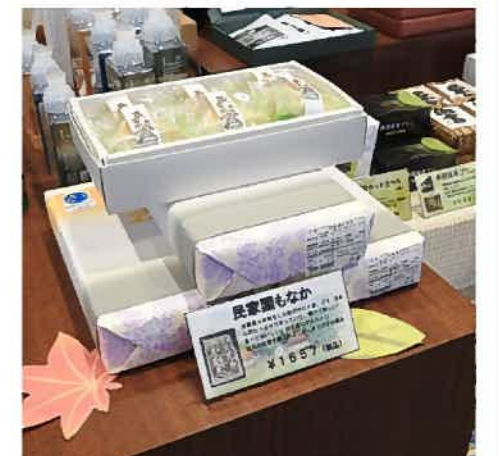
- クラブハウス内での生田緑地関連グッズ販売やイベントなどの広告ポスターの掲示、藤子・F・不二雄ミュージアム関連のゴルフイベントを開催するなど、アクティブなゴルファーに訴求し、生田緑地の各施設へ導く取組を強化できるとよいと思います。



様々な活用が期待される無人運転カート



ゴルフ場と西口広場をつなぐ園路のサイン。来園者もクラブハウスのエレベーター使用可能



クラブハウスの売店における生田緑地関連グッズ（民家園もなか）の販売状況

## (6) 生田緑地ばら苑管理者（公益財団法人川崎市公園緑地協会）ヒアリング調査

### 1. 施設について

#### ■ 施設全般に老朽化が進んでいる

- ・ローズガーデンハウス、トイレ、温室、ボランティア棟、倉庫などの建築物、パーゴラ、トレリス、彫刻などの工作物、排水設備などの配管類など多岐にわたって老朽化が進んでおり、耐震基準不適合ということもあり、現状維持は困難です。
- ・もみじ谷からばら苑に至る階段は、木部にシロアリによる腐朽箇所が複数確認されており、対策を急ぐ必要があります。
- ・ローズガーデンハウス講習室やボランティア棟などの広さが利用目的に合わず、現状では密を避ける必要もあって不便を強いられています。

#### ■ バリアフリー対応の課題

- ・ばら苑には階段でしか行けない場所があり、車いすの方をご案内できないことが大きな課題です。
- ・もみじ谷からばら苑に至る階段は傾斜がきつく、高齢の方などが足を滑らせて負傷される事故が度々発生しています。

### 2. バラの栽培・展示について

#### ■ 品種コレクションについて

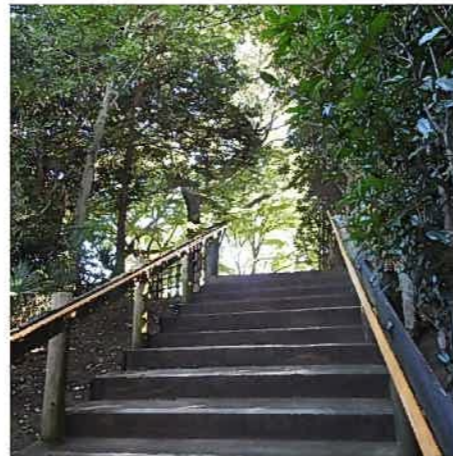
- ・このばら苑ならではの稀少品種を数多く保有しているため、業者に接ぎ木を依頼し後継苗をつくるなど、稀少品種を維持する取組を行っています。
- ・お気に入りの品種が開花するのを毎年楽しみに来苑される方が多く、ばら募金で購入した苗も多いため、市民からお預かりしたバラという意識をボランティアの方々と共有しつつ栽培・展示に取り組んでいます。

#### ■ バラの生育環境

- ・全体的に土壌の劣化が深刻な状況となっており、ばら募金を活用して少しずつ土壌の入れ替えを進めています。

#### ■ 病虫害防除

- ・耐病性の低い品種を多く栽培していることもあり、休眠期を除き月に3~4回の頻度で農薬散布を行っています。
- ・減農薬を目指す世界的な傾向を踏まえ、新たにバラを補植する際に耐病性の高い品種を選ぶ、農薬以外の防除方法を試行するなどにより、減農薬に取り組む必要があると思います。



もみじ谷からばら苑に至る階段の状況



劣化が進んでいる彫刻類



園路と接するカナル跡地に段差があり注意が必要

### 3. 再整備に当たって大切にしたいこと

#### ■ レイアウトやデザインについて

- ・開苑以来レイアウトに大きな変更はなく、ボランティアとばら募金に支えられて維持してきたばら苑のため、極端にレイアウトやデザインを変えることは望ましくありません。
- ・急な階段を上ってようやくたどり着くと、森に囲まれたばら苑の眺望とバラの香りに迎えられる。このような演出は他のバラ園にはなく、特に受け継いでいってほしいと思います。
- ・植え込みの奥にあるバラなど、来苑者が近づけないバラがあるため、どのバラにも近づけて香りを楽しめるような工夫が必要だと思います。

### 4. 再整備後の運営について

#### ■ ボランティアの継続について

- ・ボランティアの登録人数は現在約180名、ほぼ一日おきに活動日があって、平日には20~30名、休日には40~50名が活動しています。日本ばら会から3名の講師をお招きして月に3回開催している講習会は好評です。勉強熱心な方が多く、こちらが教えられることも度々あります。
- ・様々なご意見をお持ちの方がおられますが、このばら苑のボランティアをこれからも続けていきたい、という思いは皆さんが共有していると思います。

#### ■ 通年開苑の可能性について

- ・通年開苑する場合、バラの開花が少ない季節の魅力を保つため、バラ以外に草花なども加えていくことになると思います。現在でも、オールドローズコーナーなどで、バラと草花を組み合わせた見せ方が試行されています。

### 5. 来苑者の誘導について

- ・府中街道からばら苑に至るアプローチは高低差が大きく、高齢者や身障者の方々に無理を強いている現状があります。
- ・府中街道からもみじ谷までの傾斜路は、近隣住宅への配慮のため、マイクロバスによるピストン輸送をしていません。
- ・通路の幅員が狭く、一方通行での運用となるため、車両の誘導警備に多大な人員配置を要しています。



来苑者を迎えるばら苑の眺望階段でしか行けないため、車いすの方はこの眺望を楽しめない。



令和4年秋の開苑時に開催された「かわさきJAZZ」の様子



車いすを利用される方々の苑内の移動状況



## (7) 生田緑地ばら苑 ボランティアの会 ヒアリング調査

### 1. バラの栽培・展示について

#### ■ 品種コレクションについて

- ・アーリーモダンローズのコレクションなど、このばら苑ならではの稀少品種は、栽培・展示の継続が望ましいと思います。
- ・バラは大切に育てていても枯らしてしまうことがあり、接ぎ木増殖もうまくいかないことがあり、今ある品種の全てを残すことはできないと実感しています。
- ・来苑者やボランティアの方々にはそれぞれに思い入れのある品種や株があるため、保存品種の選択にあたっては市民やボランティアの思いが反映できる機会があるといいと思います。

#### ■ バラの生育環境

- ・60年の栽培期間を経て、バラの生育環境が悪化してきており、根頭癌腫病はほぼ常態化しています。土壌の入れ替えを全体的に行う必要があると思います。

### 2. 再整備に当たって大切にしたいこと

#### ■ レイアウトやデザインの踏襲

- ・緑に囲まれ、周囲に人工物がほとんど見えないことがこのばら苑の一番の魅力だと思います。開発によってこの魅力が失われないよう、ばら苑の周囲に緩衝帯を設定すべきだと思います。
- ・このばら苑の大切なコンセプトは、市民の声が集まって向ヶ丘遊園の閉園後も遺った「市民に愛されるばら苑」であるということです。市民の思いに応えるためにも、開苑以来のレイアウトは、基本的には受け継いでいくべきだと思います。
- ・当時の池とカナルは廃止されましたが、池の跡にできた芝生は気持ちよく、小さなお子さんが遊ぶ様子も見られるため今のままでよいと思います。
- ・再整備にあたっては、西口広場や駐車場をばら苑に取り込むなど、敷地を大きくとらえて自由な発想で検討すべきという意見もあります。

#### ■ 改良してほしいこと

- ・つるバラのコーナーは、窮屈なポール仕立てを止め、おおらかなフェンス仕立てなどに変えてほしい。また、つるバラの周囲に人が出入りできる園路があるといいと思います。
- ・パーゴラは高さがあり過ぎてつるバラの誘引が難しく、高い場所に咲く花も観賞しづらいので、改良してほしい。



ローズガーデンハウスの外観



バラ植栽地の現状



つるバラコーナーの現状

- ・ばら苑を見渡す北側の丘の上は一番の見せ場ですが、階段でしか上がれないため車いすの方は楽しめません。ローズガーデンハウスの建て替え時は、エレベーターで上られる屋上テラスをつくり、どなたでも眺望を楽しめるようにしてほしい。
- ・温室は窓・扉とも固着して動かず、物置としてしか使えない状況です。育苗などの作業の他にも展示や講習会など多目的に使えるので、現状の2倍程度の規模で再整備してほしい。
- ・ボランティア棟の男性用更衣室がかなり狭く、流しやシャワー室もないため不便を感じています。
- ・ばら苑に向かう途中の雑木林にはヤマユリがよく咲いていましたが、今は下草と一緒に刈り払われています。里山の風情を感じさせるヤマユリを復活させてほしい。
- ・ボランティアには日々の活動のなかで感じているそれぞれの思いがあるため、再整備計画の検討過程にはより多くのボランティアと話し合う機会を設けてほしいと思います。

### 3. 再整備後の運営について

#### ■ 通年開苑の可能性について

- ・通年開苑の是非については、ボランティアの間でも意見が分かれています。反対する理由は、バラの見せ方はどうなるのか、夜間の出入りも自由になるのかなど、様々な疑問や懸念があるためです。ばら苑の構造やボランティア活動にも影響が大きいため、多くのボランティアが参加する話し合いの場を設けていただきたいと思います。

#### ■ 有料化の可能性について

- ・無償のボランティア活動を続けている立場からは、有料化の議論には強い抵抗感を感じます。

### 5. 提言書「『生田緑地ばら苑』再生について」

#### ■ 提言書の「自然環境への配慮」とは

- ・ばら苑で栽培するバラと、周囲の自然地に自生するノイバラなどとの自然交雑を防ぐ必要があるとのことで、園芸品種との交雑は可能性が低いですが、栽培している原種系のバラとの交雑は起こりえるため、配慮することが求められています。
- ・耐病性の低い稀少品種のコレクションもあるため農薬は必要ですが、適期散布などによる減農薬を図ることで、環境負荷を減らす取組を進めたいと思います。



パーゴラの現状



温室内の現状



ボランティア棟の外観

## (8) 生田緑地マネジメント会議 生田緑地ビジョン改定プロジェクト会議

### 第2回 摘録

日時 令和4(2022)年12月20日(火) 15:00~16:30

場所 生田緑地整備事務所2階 市民活動室

#### ■ 資料「各調査の進捗について」への感想・意見

- ・ 近隣小学生アンケート調査については、生田緑地に隣接する白幡台小学校、向丘小学校も調査対象としてほしい。

#### ■ 資料「生田緑地ビジョンの改定に向けた検討状況について」への感想

##### ○ 資源の分類について

- ・ 「みどり」には保全と利用のふたつの側面があるが、保全の側面に偏った項目立てになっているように見える。「保全と利用の好循環」という基本的な考え方を継承するということもあり、倉本委員から「今後は利用することを保全につなげることが大事」という意見をいただいているので、うまく整理する必要があると思う。

##### ○ 担い手の発掘・育成について

- ・ 各活動団体でも若い世代にアプローチする取組を行ってきていて、少ないながらも継続的に参加している若い世代があることは貴重な財産であると感じている。
- ・ 若い世代の関心を高めるため、「向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会」では法政大学第二高等学校の生徒を招いて講義や現地見学を行う活動を継続している。

##### ○ しなやかに使いこなすために

- ・ 生田緑地ばら苑、川崎市立日本民家園の利活用の可能性を狭めているルールがある。剪定などで得られる花や実は全て処分する、古民家の囲炉裏では煮炊きができない、などのルールを緩和すると、体験プログラムなどの魅力や可能性が広がると思う。
- ・ 生田緑地内で火を使える場所やプログラムがあれば、ナラ枯れ樹木の伐採で生じる木材の活用につなげられる。

##### ○ 多様な主体との連携・協働・共創

- ・ 情報が広がるようになり遠方から来られる方も増えているが、近隣にお住まいの方々に関心を持ってもらうことも大事。十五夜フェスタなどのイベントや勉強会などのプログラムをきっかけにして、近隣にお住まいの方々が生田緑地の活動に携われるようになるといい。
- ・ 活動団体などに所属せずひとりで清掃などの活動を続けている方もおられる。そうした方々のご意見を伺えるような機会があるといい。
- ・ 生田緑地にはたくさんのボランティアがおられるが、このような会議などに参加したいという方が少ない。ボランティアの情報共有の仕方を改善して、みんなが会議に興味を持ち参加したくなるようにできるといい。

##### ○ 公園DXの推進

- ・ 生田緑地の生物多様性に関わる情報を個々に抱え込んでいる状況を改善し、GISなどの新しい技術を使って情報を共有していく仕組みをつくる必要があると思う。

#### ■ 生田緑地ビジョンの改定に向けて

##### ○ 若く優秀な学生を招く

- ・ 30年後の将来像を描くには、30年後も活躍できる若い世代の参加が欠かせない。専修大学、明治大学、東京農業大学などから専門分野を学んでいる優秀な大学生を招き入れ、30年後のビジョンをつくるテーマで若者主体の会議を開催したい。
- ・ この取組をきっかけとして若い世代が将来の担い手となるよう我々の世代が支えていく。
- ・ 活動団体にはそれぞれに見えない参入障壁があると感じていて、活動団体のなかだけで将来の担い手を育てることに限界がある。今後10年の取組としてグリーンディレクターの仕組みが打開策になることに期待しているが、30年後のビジョンを描くには次元の違う取組が必要と思う。
- ・ 全国都市緑化かわさきフェアはこのような取組を始める契機になると感じ、主体的に計画に関わるようにしている。
- ・ 生田緑地に関わっていただいている大学の先生方に協力を請い、優秀な学生を30名ほど集め、30年後の生田緑地の将来像をテーマとしたサミットを開催してみたい。

##### ○ 上位計画との関係

- ・ 川崎市が示す上位計画によってもめざす方向性が変わっていくと思っている。コロナ禍前に生田緑地はインバウンドの目玉になることをめざすといわれていたが、コロナ禍を経てこの方針は見直されるのか。例えば生田緑地ばら苑では、これまで通りインバウンドを取り込むのか、あるいはマイクロツーリズムに対応するのかによって、管理の仕方も再整備の方向性も大きく変わってくると思う。

##### ○ 緑地としての価値

- ・ 地域の緑地や農地が開発によって失われていくなかで、生田緑地が残されていることに感動し安心してきた。これからも緑地として残して欲しい。
- ・ 小学生へのアンケート事例では一番に「きれいな公園」があがっている。生田緑地も「きれいな公園」でありたいと願っている。生田緑地を外から見たときの景観も大切にしていきたい。

##### ○ 改定プロセスに幅広い参加の仕組みを

- ・ 十数年前の生田緑地管理計画などの策定過程にはワークショップの手法が採用され、マネジメント会議に参加していない地域の方々も幅広く参加されていて有意義であった。生田緑地ビジョンの改定プロセスにも当時の進め方が取り入れられるとよいと思う。
- ・ 地域の若者や子育て世代などのフューチャーホルダーが加わる市民検討会議ができるとよいと思う。

##### ○ コーディネーターの必要性

- ・ マネジメント会議の取組をふりかえり、誇りを持つべきという意見もあるが、ほころびも気になる。先日、横浜自然観察の森の事例見学をしたとき、ボランティア組織の運営をリードする会長の存在を大きく感じたが、生田緑地にコーディネーターが定着していたらどうなっていたらと悔やまれる思いもあった。